

標 題 : Role of Mediterranean diet in preventing platinum based gastrointestinal toxicity in gynecological malignancies: A single institution experience.
婦人科悪性腫瘍における白金の基づく胃腸毒性の防止における
地中海食事の役割: 単一施設における経験

著 者 : E. Ghisoni, et al. (イタリア FPO-IRCCS カンディオーロがん研究所)

掲 載 誌 : World J. Clin. Oncol. 2019 Dec 24; 10(12): 391-401

要 旨 :

背 景 : 婦人科悪性腫瘍は女性で主な死因を示し、そしてそれは白金を用いた処方で治療されることが多い。

化学療法を受けている患者は栄養状態の変化に苦しみ、それが胃腸毒性、生活の質を悪化させて全体的な予後に影響する可能性がある。

実際に、治療中に良い栄養状態を確実にすることおよび毒性を制限することが、いまだに臨床医の主な目標である。

目 的 : 白金を用いた処方で治療した婦人科がんの患者で、胃腸毒性の低下における地中海食事の役割を評価すること。

方 法 : 白金を用いた化学療法で治療した婦人科腫瘍の患者 22 人に関する観察研究を、カンディオーロがん研究所 FPO/IRCCS で 2018 年 1 月と 2018 年 6 月の間に、我々は実施した。

食品と頻度および「有害事象のための患者報告評価の共通用語基準(PRO-OTCAE)」のアンケートを、開始時および各サイクルの 1 日目に行った。

胃腸毒性の差を評価するために、開始時の現在認証済みの地中海食事供給スコア(MDSS)に従って研究対象母集団を 2 グループに分けた。

結 果 : 高い MDSS の患者は、PRO-OTCAE に従って各時点で低い胃腸毒性低下の傾向を報告した (最初の評価 : $P=0.7$; 2 番目 : $P=0.52$; 3 番目 : $P=0.01$) 。

特に、吐き気の頻度と重さ($P<0.001$)、胃痛の頻度と重さ($P=0.01$ と $P=0.02$)、腹部膨満の頻度と重さ($P=0.02$ と $P=0.03$)、および日常活動の障害($P=0.02$)の差は、治療の終わりで統計的に高く有意であった。

患者の 60%以上が、化学療法中に主に胃腸毒性のためにその食習慣を変えた。

カロリー($P=0.29$)および単一栄養素の両方に関して食品摂取の大きな低下が、高い毒性を経験したグループに現れた。

結 論 : 地中海食事の順守は、化学療法中に胃腸毒性を低下させて栄養状態の障害を防止する可能性がある、我々の結果が示している。

我々の結果を確認するために、より大きな研究が必要である。

©(著作権) 筆者ら 2019 年。Baishideng 出版グループ社が発行した。版權所有。

キーワード： 胃腸毒性、婦人科悪性腫瘍、地中海食事、栄養状態、白金を用いた化学療法
